

愛の誓い 裏千家流

「茶婚式」人気じわり

いるという。
式を終えたあと、新郎の山崎さんは「茶婚式は雑誌で存在を知りました。一生に1度のことなので思い出深い式と選んだが、心に残る式になった」と満足そうだった。

茶道裏千家の「立礼りつらい」の作法にのっとり、カップルが茶を飲んで結婚を誓う「茶婚式」が京都市内で少しずつ人気を広げている。「京都で、神道の三三九度とはまた違う和風の式を挙げたい」と府外から訪れるカップルもある。

俊昭社長）と裏千家とかかわりの深い細見美術館（左京区）。木村社長は京都の神社での結婚式を多く手がけてきたが、意外に若者の間で八和のスタイルへのあこがれが強いのを知り、同美術館の協力を得て2004年から始めた。

発案者はTNCブライダルサービス（中京区・木村

30日には東山区の京料理東観荘で、川崎市の会社員山崎裕一さん(31)と洋子さん(31)の茶婚式が行われた。

式では、厳かな雰囲気の中で、裏千家の女性教授が茶をたて、和装姿の新郎新婦のテーブルへ。二人は自らの茶を飲んだあと、感謝の意を込め、教授がたてた茶をそれぞれの父親に差し出し、参列者らも一緒に茶を頂いた。

茶を飲んで結婚を誓う山崎夫妻（東山区で）



同社によると、婚礼雑誌や口コミなどで希望者は年々増え、同社では昨年は9組の式を取り持ち、今年も今のところ16組が成約して